

# 民間の英語資格・検定試験の大学入学者選抜における活用実態に関する調査研究事業（概要）

## 1. 調査の目的・概要

- 「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」における議論を受け、活用状況・活用事例に関する更なる情報提供を行なうために以下の調査を行った。
  - ①大学入試における民間の英語資格・検定試験の活用に関する調査（国公立大学 695校）
  - ②活用を行なっている大学への個別インタビュー（9校）
  - ③民間の英語資格・検定試験に関する学生の受験状況および意識調査（国公立大学生 13,514人）
- 具体的な内容としては
  - <大学>
    - ・活用状況、活用方法、活用/未活用理由、合否ライン設定経緯
    - ・アドミッション/カリキュラム/ディプロマ・ポリシーとの関連づけ 等
  - <学生>
    - ・受験経験、所有スコアレベル
    - ・入試に資格・検定試験を活用することに対する意識 等に関して調査・分析等を行った。

## 2. 調査結果・概要

### 大学における全体的な活用傾向

- 回答のあった国公立大学の**43.0%**が民間の英語資格・検定試験を活用している。
- 導入の内訳については、推薦が29.2%、AO入試が24.2%となっている一方、一般入試では6.3%程度の導入にとどまっている。

### 大学における資格・検定試験の活用理由および未活用理由

- 大学が入試に資格・検定試験を活用している理由としては、「より優秀なグローバルな意識が高い学生を確保するため」**64.2%**がトップ。一方で活用していない理由は「自校で行っている入学者選抜の方法で十分と考えている」**74.2%**がトップ。

### 活用している大学へのインタビュー結果より

- 大学もしくは学部のアドミッションポリシーと育成すべき人材像を明確にし、活用する民間の英語資格・検定試験の種類や活用方法、合否ラインの線引きを行っている。
- 民間の英語資格・検定試験の活用のためには学長・学部長等のリーダーシップによる組織的な働きかけが必要である。

### 資格・検定試験の受験者の傾向

- 民間の英語資格・検定試験の受験経験がある学生の英語力は、**CEFRレベルではA2（43.0%）、B1（31.9%）**と「英語力調査」（平成27年度文部科学省実施）の結果より高い。
- また、民間の英語資格・検定試験を受験した理由として「高校の学習活動の一環として」（35.2%）がトップだが、「個人のスキルアップのため」と回答した学生も29.6%おり学習意識が比較的高いと思われる。

### 学生側の意識

- 65.7%の学生が「民間英語試験を活用して入試ができる大学が増えることが有益（\*1）」**と回答。（65.7%のうち38.1%は民間の英語資格・検定試験を未受験者）
- 入試における望ましい活用方法としては、「英語免除」→「出願要件」→「点数加算」→「みなし割合」→「みなし満点」の順番。  
\*1：有益だと思う・まあまあ有益だと思うと答えた学生の合計

活用している大学も未活用の大学も「優秀な学生確保」がキーワードになっているが、資格・検定試験の受験者の英語力および学習意欲（以下の「資格・検定試験の受験者の傾向」参照）を鑑みると、**民間の英語資格・検定試験の活用は、優秀な学生確保の有効な手段の1つとして考えられる。**

## I. 大学アンケート調査について

対象者：全国公私立大学の大学事務担当者  
対象学校数：全国公私立大学（750校）  
対象期間：平成27年11月24日～12月18日  
有効回答数：国公私立大学（695校）回収率 92.6%  
調査方法：郵送とメール配信によるアンケート依頼  
回答はインターネットアンケートシステムを利用したWEBアンケート方式

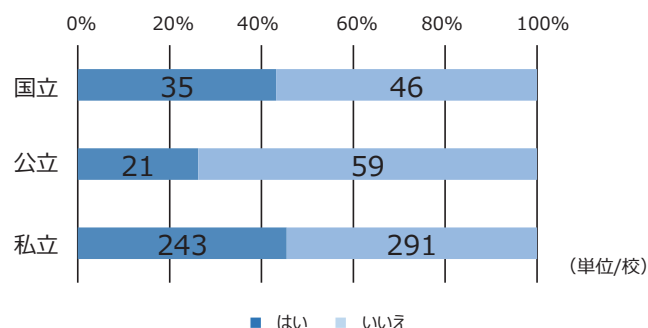
### 調査結果（概要）

- 回答のあった国公私立大学の**43.0%**が民間の英語資格・検定試験を活用している。  
推薦が29.2%、AO入試が24.2%の一方、一般入試では6.3%程度の導入にとどまっている。
- 大学入試に活用している理由としては、「より優秀／グローバルな意識が高い学生を確保するため」**64.2%**、「英語4技能の能力の測定ができること」48.2%、「テスト結果の客観性・国際通用性」47.2%を挙げる大学が多い。
- 民間の英語資格・検定試験を活用する大学の想定する受験生の英語力のレベル（合否・加点等のライン）としては、おおむね**CEFRのA2レベル～B1レベルまでに分布**。
- 民間の英語資格・検定試験を入試に活用していない大学の多くは、「自校で行っている入学者選抜の方法で十分と考えている」**74.2%**と回答。一方で、「現状は十分ではないが民間の英語資格・検定試験の導入が困難」とする大学も16.9%程度ある。
- より活用されるためには、**入学者選抜の観点からの適切な合否ラインの設定方法や、アドミッション／カリキュラム／ディプロマ・ポリシーとの適合性等、民間の英語資格・検定試験についての情報発信が必要**と回答。

### I-1. 活用状況

入学者選抜において民間の英語資格・検定試験を活用しているのは、現状で43.0%（299/695校）（参考：平成25年に実施した「平成25年度大学入学者選抜における民間の英語資格・検定試験の活用状況」時点では35.8%）  
ただし、推薦入試が29.2%、AO入試が24.2%の一方、一般入試では6.3%程度の導入にとどまっている。

問 貴校では入学者選抜において英語の民間資格・検定試験を活用していますか。  
(回答数695校)



問 入学者選抜において民間の資格・検定試験を活用している場合、入学者選抜の実施形態（一般入試、AO、推薦等）ごとにお答えください。（回答数299校）

	純計	推薦	AO	一般
国立	35	18	11	9
	(43.2%)	(23.5%)	(13.6%)	(11.1%)
公立	21	17	8	1
	(26.3%)	(21.3%)	(10.0%)	(1.3%)
私立	243	168	149	34
	(45.5%)	(31.5%)	(27.9%)	(6.4%)
計	299	203	168	44
	(43.0%)	(29.2%)	(24.2%)	(6.3%)

上段（単位／校）

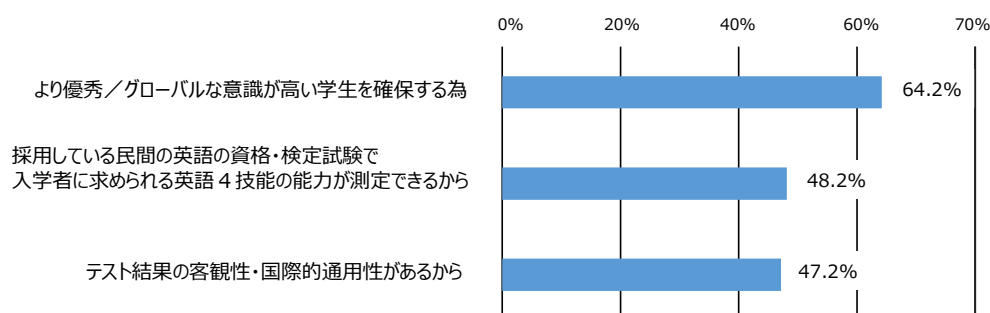
下段の（ ）は国立81校、公立80校、私立534校、計695校に対する割合

※回答時点における導入予定校を含む

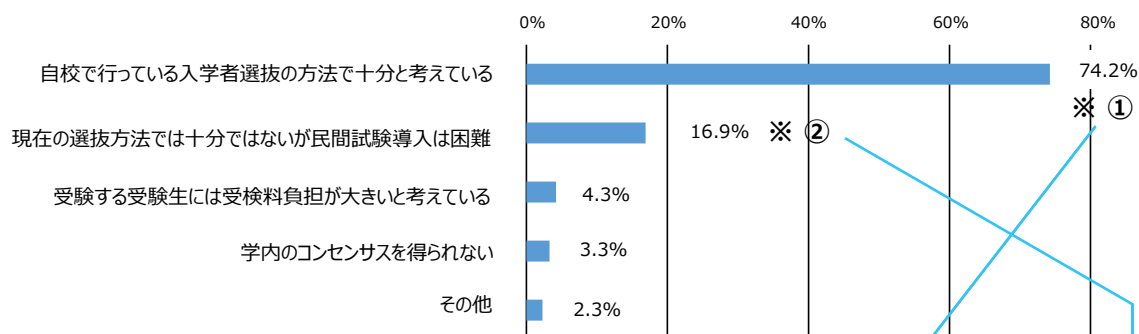
## I-2. 活用している理由・していない理由

活用している大学、活用していない大学の双方とも最大の理由は優秀な学生確保が共通の目的である。

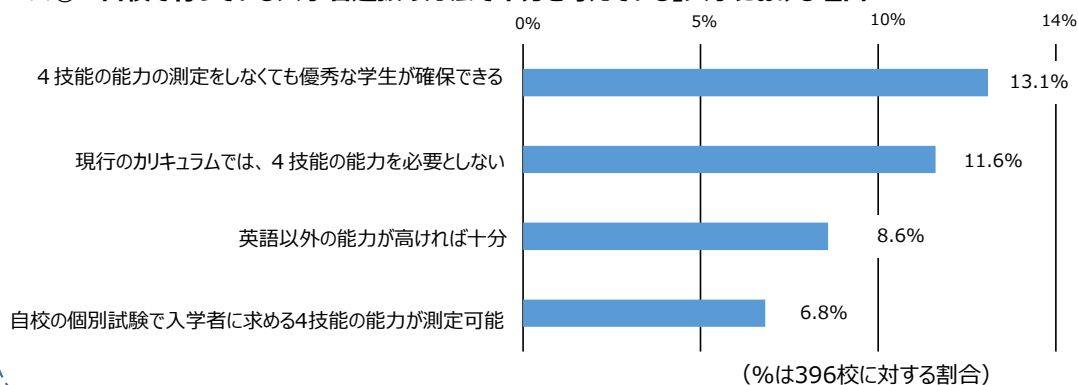
問 貴校が大学入学者選抜に民間の英語の資格・検定試験を活用している場合、その理由として挙げられるものは何ですか。（回答数299校）



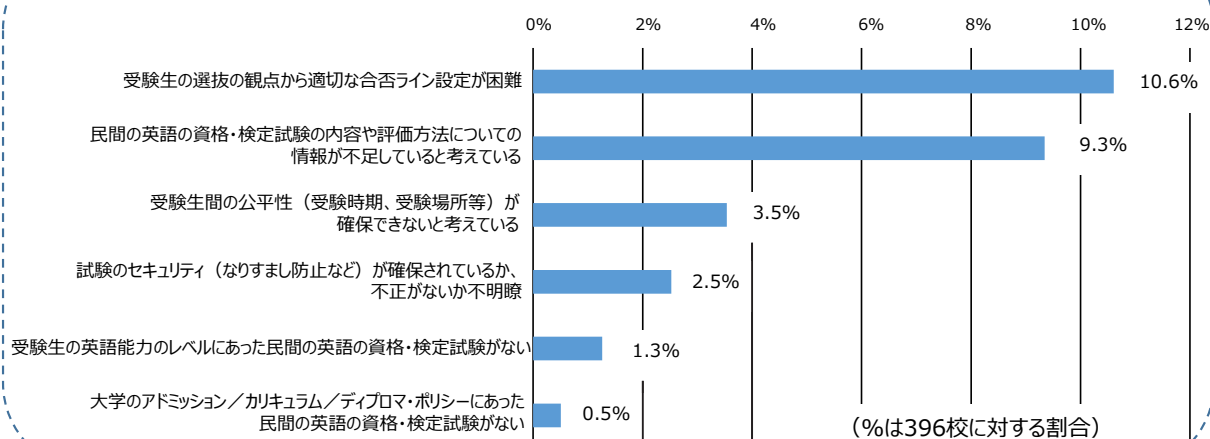
問 貴校が大学入学者選抜に英語の資格・検定試験を活用していない場合、その理由として挙げられるものは何ですか。（回答数396校）



※① 「自校で行っている入学者選抜の方法で十分と考えている」大学における理由



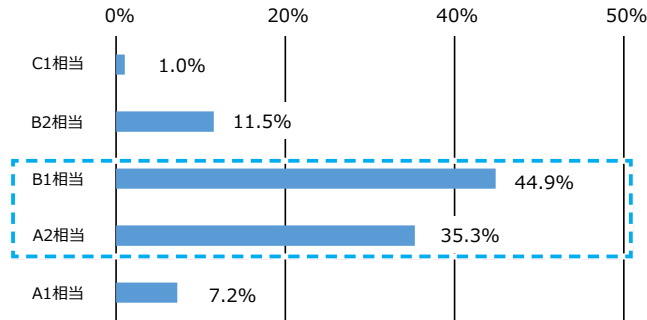
※② 「現在の選抜方法では十分ではないが民間試験の導入は困難」と解答した大学における理由



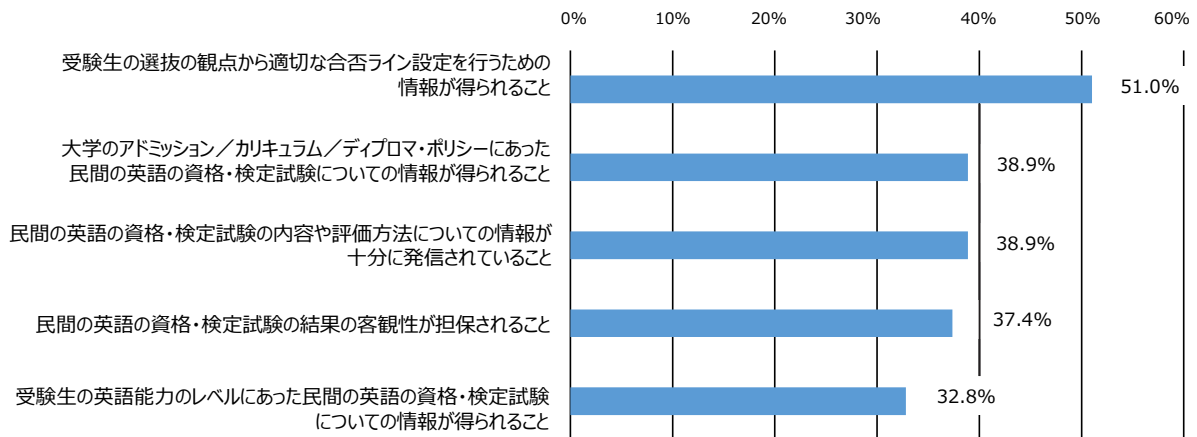
### I-3. 活用されるために必要なこと

試験内容や情報（特に合否ライン設定を行うための情報）が必要と感じている

問 活用している場合、対象としている学部・学科と定員数及び具体的な合否/加点等のラインをご記入ください。（回答数 2,226パターン、CEFRの各レベルに換算して表示）



問 今後貴校が、入学者選抜に英語の民間の資格・検定試験を活用するには、どのような条件が整うこと、またはどのような点に改善が見られることが必要と考えますか？（回答数396校）



## Ⅱ. 大学インタビュー調査について

対象校：以下の9校

対象期間：平成27年11月26日～12月28日のいずれか1日

調査方法：大学への訪問インタビュー実施

大学名	地区	区分	導入方式	開始年度	主な試験	備考
関西学院大学	近畿	私立	英語免除	平成28年度	Cambridge English, 英検, GTEC CBT, IELTS, TEAP, TOEFL iBT, TOEIC & TOEIC SW 等	
上智大学	関東	私立	英語免除	平成27年度	TEAP	平成29年度から全学科一般入試で4技能実施
筑波大学	関東	国立	検討中	平成30年度	Cambridge English, 英検, GTEC CBT, IELTS, TEAP, TOEFL iBT, TOEFL Junior Comprehensive, TOEIC & TOEIC SW 等	平成30年度から推薦入試に、平成31年度から一般入試へ導入予定
東京海洋大学	関東	国立	出願要件	平成28年度	英検, GTEC CBT, GTEC for STUDENTS, IELTS, TOEFL iBT, TOEIC 等	海洋科学部全学科の出願要件。センター、個別とも受験必要
長崎大学	九州	国立	みなし満点	平成27年度	英検, GTEC CBT, GTEC for STUDENTS, IELTS, TOEFL iBT, TOEFL Junior Comprehensive, TOEIC 等	
明治大学	関東	私立	英語免除 & 点数加算	平成29年度	英検, IELTS, TEAP, TOEFL iBT, TOEIC & TOEIC SW 等	
山口大学	中四	国立	点数加算	平成27年度	英検, GTEC for STUDENTS, IELTS, TOEFL iBT, TOEIC	
立教大学	関東	私立	英語免除	平成28年度	英検, GTEC CBT, IELTS, TEAP, TOEFL iBT, TOEIC & TOEIC SW 等	
立命館大学	近畿	私立	みなし満点	平成28年度	英検, GTEC CBT, IELTS, TOEFL iBT	

## 主な意見

### 民間の英語資格・検定試験の入試への導入の経緯について

- ・「グローバル人材育成推進事業」の採択や、新規学部の立ち上げがきっかけとなり、学長や学部長のリーダーシップのもとで導入された。
- ・大学独自で英語4技能の能力を測定できる試験実施への限界や、国際化推進の方針、高大接続の4技能化の方向性を鑑みて導入された。
- ・一部、英語専科教員等の理解を得るのに苦労した大学もある。

### 民間の英語資格・検定試験の入試への活用の意義と効果について

- ・高校生の英語力向上に役立っている。
- ・民間の英語資格・検定試験が客観的なデータとして活用できる点。
- ・（導入する資格・検定試験によるが）大学が4技能を求めているという発信につながる点。
- ・大学入学時に一定レベルの英語力を持った人材を確保できる。
- ・大学入学後に留学等を目指す人材の育成など、大学入学後のカリキュラムポリシーとの接続が見えてきた。

### 具体的な活用方法、資格・検定試験の選択、合否ラインの設定等の考え方について

- ・CEFR対照表など、一般に活用されている対照表を元に合否ラインの設定を実施。その合否ラインを基本として大学ごとの事情を加味して独自のラインを確定している。
- ・本来、英検の合否結果は無期限だが独自に「2年以内の合否に限定」している大学もある。
- ・学生が受験しやすいのは受験会場が近くにある試験や、費用が比較的安価な試験である。
- ・受験料が安価であること、将来的に就職の際に活用できるなどを条件に試験を選択。
- ・受験生にとって受験機会が限定的な資格・検定試験もある。

### 活用に当たっての課題について

- ・高大接続の観点からも高等学校教育で対応できる試験内容になっているのか。レベルが高すぎる試験もあり、一部の高校の教師からの反対の声もある。
- ・入学時には4技能を求めている一方、大学入学後のアセスメントは2技能で測定しているという矛盾もある。一方、4技能に取り組んできた学生は大学入学後も英語力の向上が見られる。
- ・現時点では発生していないが、民間の英語資格・検定試験を利用しての大学入学者選抜試験受験者が増加した場合、事務処理が増える可能性もある。
- ・受験生の検定料の負担、受験地など、受験に係る負担の問題。

### 今後の一層の活用に向けた見込み・展望・戦略等について

- ・大学入学者選抜において英語の4技能が求められる一方、高校時代の取り組みが必要になる。4技能を教育できる英語教員の確保もますます必要になるだろう。
- ・併用して国際バカロレアの導入。
- ・大学入学者選抜を変えたからには大学入学後の学生のモチベーションを下げることをせず、学生の期待にこたえられるようなカリキュラムの開発が一層必要になる。
- ・他学部等にも枠を広げる。

### Ⅲ. 学生アンケート調査について

対象者：全国公私立大学の在学生  
対象学校数：全国公私立大学（750校）  
対象期間：平成27年年11月24日～12月14日  
有効回答数：国公私立大学の在学生 13,514人（506校）  
調査方法：大学宛に郵送とメール配信によるアンケート依頼を実施。  
回答は大学から依頼を受けた学生個人によるインターネットアンケートシステムを利用したWEBアンケート方式

#### 調査結果（概要）

- 13,514人の学生からアンケートに対する回答あり。回答した学生の5,043人（37.3%）が高校生当時に「民間の英語の資格・検定試験を受験した」と回答。CEFRのレベルでは、A2相当（43.0%）、B1相当（31.9%）が多かった。
- 民間の英語試験・検定試験を受験した理由として「高校の学習活動の一環として（35.2%）」「個人のスキルアップのため（29.6%）」を挙げる学生が多い。一方、未受験の理由は、「試験を受験する必要性を感じなかったから（52.1%）」、「英語が苦手、もしくは嫌いだから（39.1%）」となっている。  
\* 割合はそれぞれ「受験した」と回答した学生、「受験していない」と回答した学生に対する割合。
- 民間の英語試験・検定試験を受験した学生のうち16.9%が「入試に活用するため」と回答し、そのうち35.0%が実際に活用。活用した入試方式は推薦入試（15.3%）、活用の方法は出願要件（48.0%）が多い。
- 民間の英語試験・検定試験のスコアが高い学生ほど、積極的に入試に活用している傾向があり、入試に活用している学生のスコアの分布は、B2相当が20.7%、C1相当が17.6%、C2相当が25.0%を占めている。
- 一方、民間の英語資格・検定試験を受験した学生がその結果を入試に活用しなかった理由としては、「大学の求める基準に点数が達しなかったこと（25.8%）」、「大学が活用していなかったこと（18.1%）」等を挙げる学生が多い。
- 民間の英語試験・検定試験の結果を大学入試で使いやすくするためには、「より多くの大学における活用（54.7%）」、「高校の学習や受験勉強と民間英語試験の内容の整合性（30.6%）」、「民間英語試験の受験機会の増加（30.4%）」、「受験料負担の軽減（22.7%）」等が挙げられている。
- 志望校決定に際し、「民間英語試験の活用の可否がまったく影響しなかった」とする学生が50%以上（2,426人、52.7%）を占める一方、65.7%の学生が「民間英語試験を活用して入試ができる大学が増えることが有益」と回答している。（65.7%のうち、38.1%は民間の英語資格・検定試験の未受験者である）
- 望ましい入試における活用方法としては、「英語免除」、「出願要件」を挙げる学生が多く、「英語免除」→「出願要件」→「点数加算」→「みなし割合」→「みなし満点」の順番。

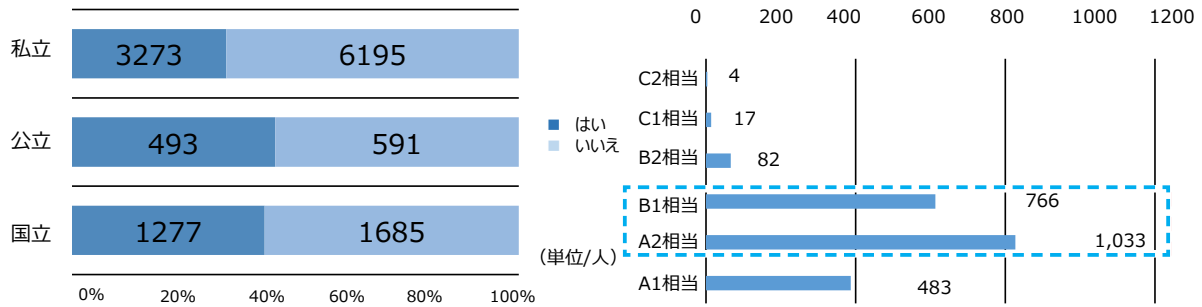
本調査は不特定の学生に対する任意のWebアンケートであるため、調査対象の数（母数）は問によってバラつきが見られる。よって、より詳細な学生の実態把握調査をする際にはより厳密な調査実施をする必要があると考えられる。



### Ⅲ-1. 民間の英語資格・検定試験受験状況

13,514人の学生からアンケートに対する回答あり。回答した学生の5,043人（37.3%）が高校生時代に民間の英語の資格・検定試験を受験したと回答。CEFRのレベルでは、A2相当（43.0%）、B1相当（31.9%）が多く、英語力が高めといえる。

問 あなたは高校生（1～3年生）当時、民間英語試験※を受験しましたか。（回答数 13,514名）



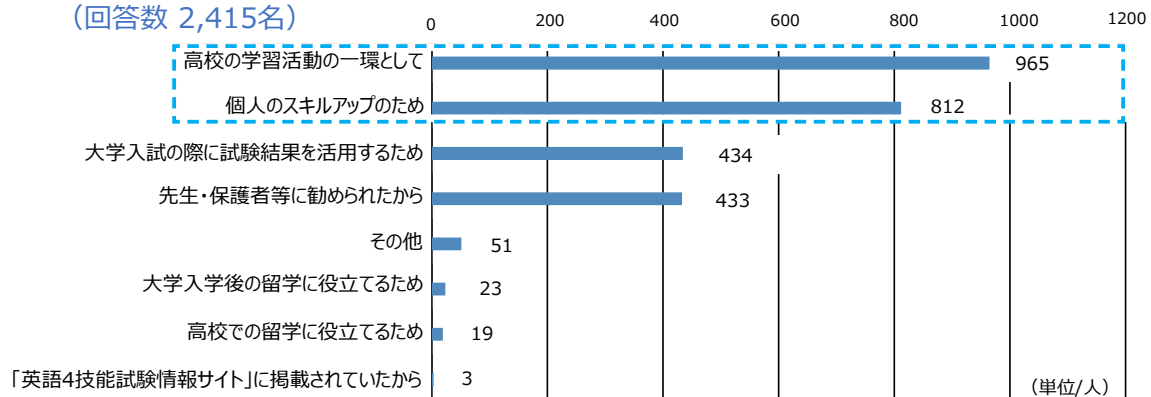
※補足「民間英語試験」の種類  
Cambridge English/英検/GTEC CBT/GTEC for STUDENTS/IELTS/TEAP/TOEFL iBT/TOEFL Junior Comprehensive/TOEIC/TOEIC S&W その他

※CEFRについては受験した民間の英語資格・検定試験のスコアについて回答があった学生（2,385人）を全国検定振興機構がCEFRに換算したものである。

### Ⅲ-2. 試験を受けた理由、受けなかった理由

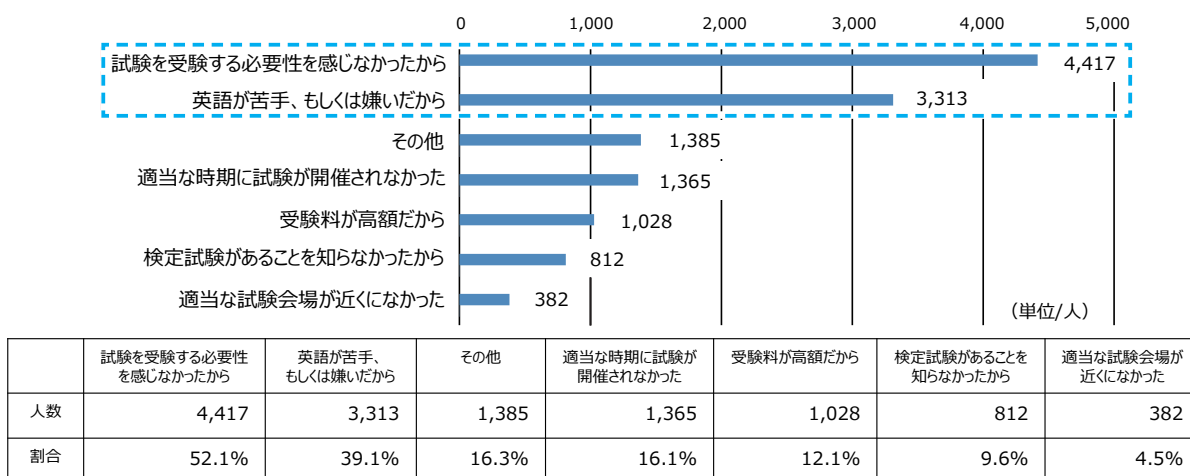
受験した理由は「高校の学習活動の一環として(965人) <35.2%>」、「個人のスキルアップのため(812人) <29.6%>」を挙げる学生が多い。未受験の理由は、「試験を受験する必要性を感じなかったから(4,417人) <52.1%>」、「英語が苦手、もしくは嫌いだから(3,313人) <39.1%>」。

問 あなたが高校生（1～3年生）ときに受験した民間の英語の資格・検定試験について、受験した時期、回数及び合否/得点及び目的について、下記の資格試験別にお答えください。（回答数 2,415名）



	高校の学習活動の一環として	個人のスキルアップのため	大学入試の際に試験結果を活用するため	先生・保護者等に勧められたから	その他	大学入学後の留学に役立てるため	高校での留学に役立てるため	「英語4技能試験情報サイト」に掲載されていたから
人数	965	812	434	433	51	23	19	3
割合	35.2%	29.6%	15.8%	15.8%	1.9%	0.8%	0.7%	0.1%

問 民間英語試験を受験しなかった理由をお答えください。(回答数 8,471名)

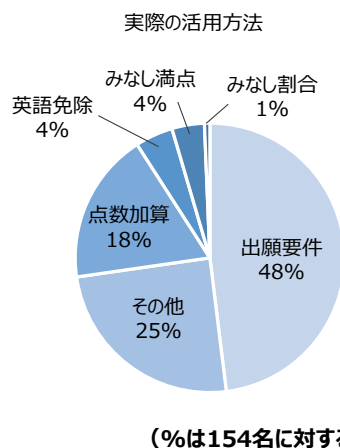
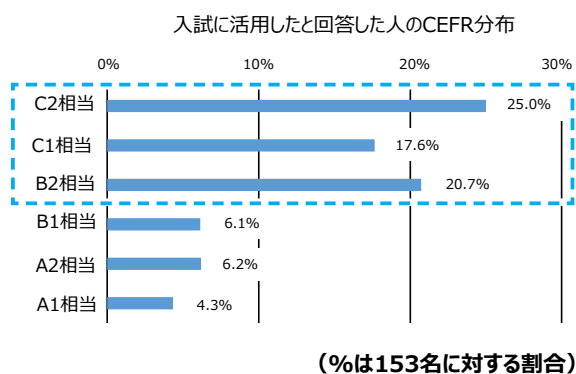


### Ⅲ-3. 大学入試への活用状況

民間の英語試験・検定試験のスコアが高いほど、積極的に入試に活用している傾向があり、入試に活用している学生のスコアの分布は、B2相当が20.7%、C1相当が17.6%、C2相当が25.0%を占めている。  
 なお、入試に活用した学生の約半数（48.0%）が「出願要件」として活用した。

問 「大学入試の際に試験結果を活用するため」と回答された方は、受験した資格試験ごとに、試験結果を提出した大学・学部・入試方式、提出先の大学における活用の方法（出願要件／点数換算／点数加算 等）について、以下の質問にお答え下さい。(回答数 154名※)

※入試に活用するためと回答した434名中、実際に活用した人数

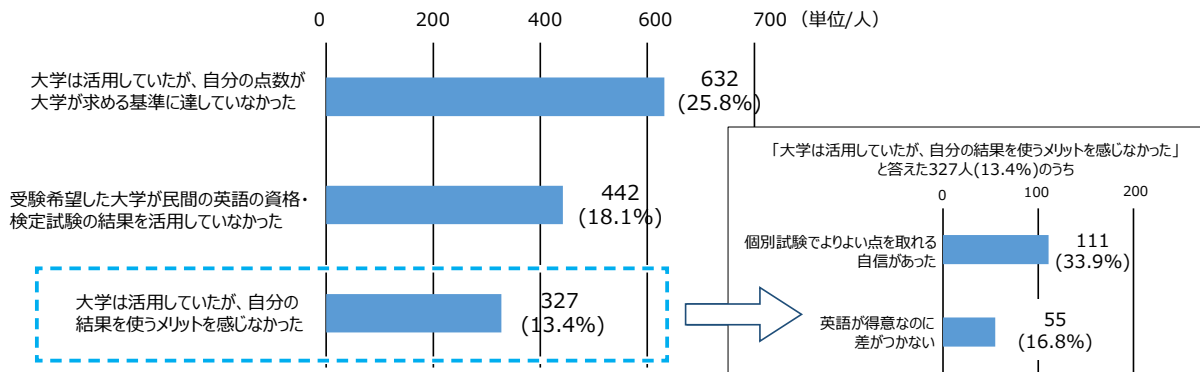


※活用方法の定義はP13の※補足「活用方法について」参照  
 ※CEFRについてはP14参照。

### Ⅲ-4. 活用しなかった理由

一方、民間の英語資格・検定試験の結果を大学入試に活用しなかった学生は「大学は活用していたが、自分の点数が大学が求める基準に達していなかった」や「個別試験でよりよい点を取れる自信があった」などを理由に挙げている。

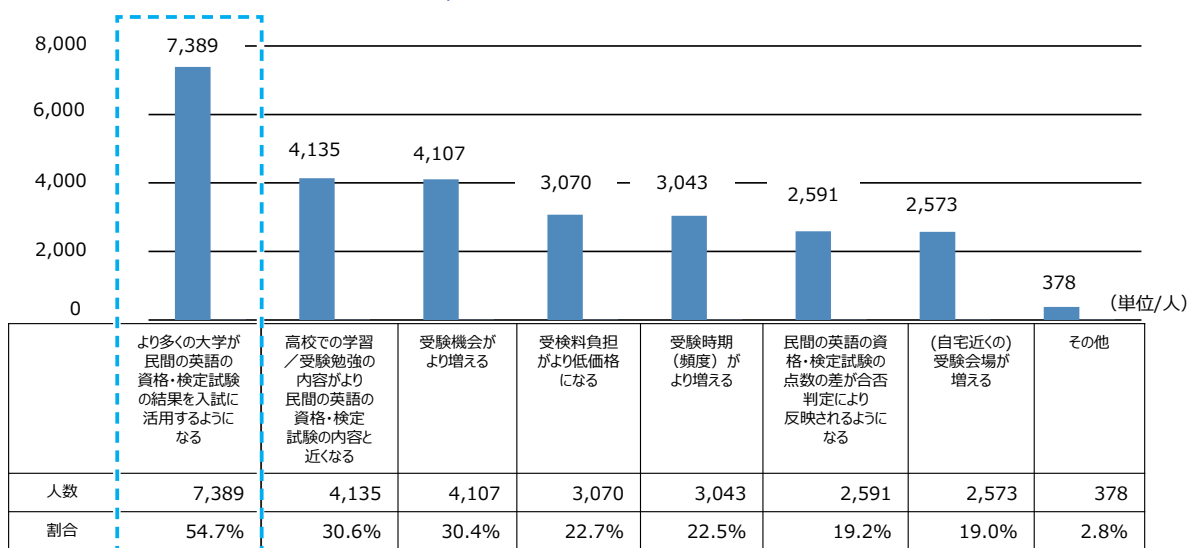
問 「大学入試の際に試験結果を活用するため」を選択しなかった方は、大学入試で活用しなかった、もしくはできなかった理由をお答えください。(回答数 2,306名)



### Ⅲ-5. 民間の英語資格・検定試験が活用されること

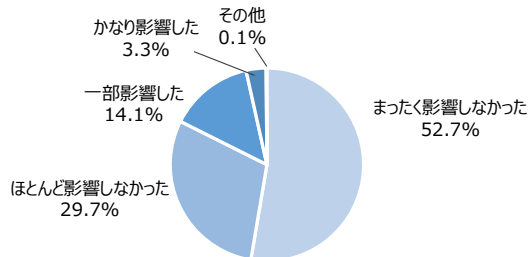
民間の英語資格・検定試験の受験経験有無に関わらず、65.7%の学生が「民間英語試験を活用して入試ができる大学が増えることが有益」と考えている。

問 民間の英語の資格・検定試験の結果を大学入試で使いやすくするためには、どのような条件が整えばよいと思いますか。(回答数 13,514名)

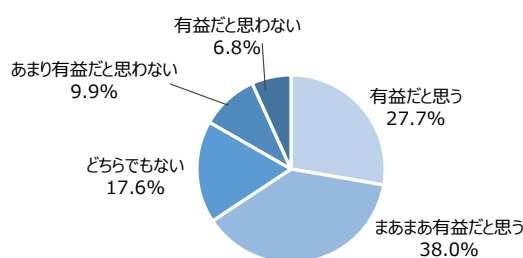


※受験料負担がより低価格になると答えた学生の希望する受験料は平均3,739円であった。

問 志望校を決める際に、「あなたが取得した民間の英語の資格・検定試験が入試に活用できるかどうか」という観点はどのくらい影響しましたか。(回答数 4,806名)



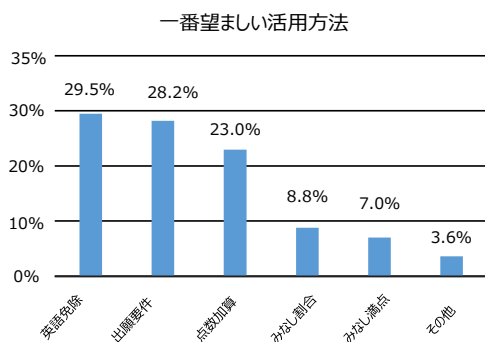
問 民間の英語の資格・検定試験を活用して入試ができる大学が増えることは高校生に有益だと思いますか。(回答数 13,066名)



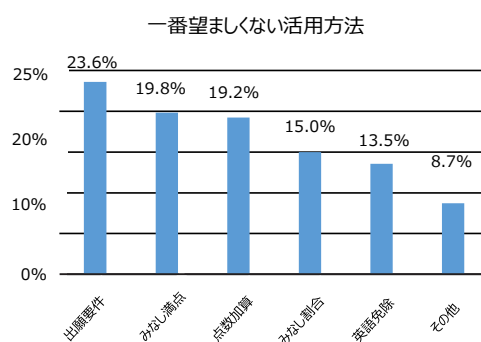
**「有益だと思う」と答えた3,623人のうち1,404人が、「まあまあ有益だと思う」と答えた4,960人のうち1,863人(計 3,267人 : 38.1%)が、民間の英語資格・検定試験未受験者であり、試験受験の有無によらず、民間の英語資格・検定試験が大学入学選抜で活用されることは高校生にとって有益であると考えている傾向が見える。**

問 民間の英語の資格・検定試験を活用した入試について、以下のどの活用方法が入試制度として望ましいと思いますか。望ましいと思う順番に①～⑤の番号を並べて回答してください。

※活用方法の定義はP13の※補足「活用方法について」参照



(回答数 12,464名)



(回答数 1,528名)

入試における望ましい活用方法としては、「英語免除」→「出願要件」→「点数加算」→「みなし割合」→「みなし満点」の順番。

## ※補足「活用方法について」

### 【出願要件】

外部試験のスコアにおいて、大学が設定した一定点数（閾値）を超えた場合に、**各大学の入学者選抜における受験資格を付与**する方式。外部試験のスコアは得点換算されず、個別選抜においても得点は考慮されない。出願要件としての外部試験に加えて、各大学による**個別選抜の英語を別途受験する必要がある**。

### 【英語免除】

外部試験のスコアにおいて、大学が設定した一定点数（閾値）を超えた場合に、各大学による**個別試験における英語の受験は免除**される方式。

### 【みなし満点】

外部試験のスコアを得点に換算した上で、大学が設定した一定点数（閾値）を超えた場合に、**各大学の個別選抜や大学入試センター試験における英語の得点を満点とみなす**方式。

### 【みなし割合】

外部試験のスコアを得点に換算した上で、大学が複数段階で設定した一定点数（閾値）を超えた場合に、各段階に応じて**各大学の個別選抜や大学入試センター試験における英語の得点を付与**する方式。（みなし9割、みなし8割 等）

### 【点数加算】

外部試験のスコアを得点に換算した上で、**各大学の個別選抜や大学入試センター試験における英語の得点に一定の得点を加算**する方式。

## (参考) 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠について

- CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て策定された。欧州域内外で使われている。
- 欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられたりするなどしている。

熟練した言語使用者	<b>C2</b>	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	<b>C1</b>	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	<b>B2</b>	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	<b>B1</b>	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	<b>A2</b>	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	<b>A1</b>	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

(出典) プリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

## 各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

平成27/09/29版

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400		7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	-564 L&R&W -484	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>  
[http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901\\_pressrelease\\_01.pdf](http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf)  
 TOEFL：米国ETS <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clkb>  
 IELTS：プリティッシュ・カウンシル (および日本英語検定協会) 資料より  
 TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より  
 Cambridge English (ケンブリッジ英検)：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>  
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より  
 「L&R&W」の記載が無い数値が4技能の合計点  
 TOEIC：IIBC <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html>  
 「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

※各試験団体の公表資料より文部科学省において作成